

## クリスマスページェント

日本の寒い冬がやってきました。

12月と言えばクリスマスと言う方も多くあると思います。

日本で一般的なクリスマスは、ケーキやチキンなどごちそうを食べたり、子どもさんはサンタさんからプレゼントをもらったり、友だちや家族や恋人同士が幸せな気持ちになる楽しい日だと思います。

でも何に対してお祝い？をするのか知らない人も多くいると思います。

キリスト教において重要な行事がクリスマス・イースター・ペンテコステとあり12月はまさしくイエスキリストの誕生＝クリス（イエス）マス（ミサ）があります。

ほとんどのキリスト教の教会・キリスト教系の学校・幼稚園・保育園・こども園もいろいろな形でページェント（イエスキリストの降誕劇）を行います。

聖書に書かれているストーリーを劇に行うので土台にされているものは変わりませんが、天地創造から行う壮大なストーリーから始めるともあります。

また、天使ガブリエルがマリヤにイエスを身ごもったことを告げる受胎告知から始めるところなど聖書の中のいろいろな角度からイエス様の降誕を劇で伝えます。

余談ですがストーリーの中で星を知らべていた博士たちは大きな星が現れたことに驚き、調べていくと旧約聖書（イエス様が生まれる前のせいしょ）に神様が約束された救い主が生まれることが分かりました。早速家財を売ってらくだに乗って遠いベツレヘムに何日もかけて3人の博士はイエス様を拝みにいきますが、実は4人の博士が行く予定でした。

4人目の博士アルタバンは先に出発した3人の博士たちを追いますが、イエス様に差し上げる宝を旅の中で困っている人に分け与えたくさんの人々を救っていくことで3人の博士に追いつけずイエス様を追いつけました。

あと少しでイエス様に会えるという時に奴隷として売られそうになった女の人のために最後の宝を手放した時、地震が起こり頭上に瓦が落ちました。死に瀕したアルタバンは、イエス様の声を聞きました。イエスのために何もできなかったと言うアルタバンに対し、イエス様は。「私はあなたに言う。あなたが私の兄弟であるこれらの最も小さい者の一人にそれをしたのなら、あなたは私にもそれをしたのである」(マタイ 25:40) アルタバンは喜びの中で亡くなっていきました。

つまりアルタバンが困っている人たちにしたことはすべて私にしてくれたことだとイエス様はアルタバンを祝福されました。

聖書の物語は楽しく不思議な物語が詰まっています。

そんなイエス様のご降誕を劇で演じることで、毎年イエス様を覚え追体験をします。

イエス様は立派な宮殿や病院で生まれたのではなく、世界中の人々のための救い主としてもっとも貧しい卑しい家畜小屋で産まれました。イエス様は分け隔てなく人を愛しともに育ち助け合うようことを赤ちゃんと言う一番弱い小さな形で表れました。

それは世の中が大変な（今も）人々が待ち望んでいた救い主の誕生でとても大きな喜びでした。

その喜びと意味を降誕劇を行うことで平和への願と祈りに繋げていきます。

愛隣幼稚園のお子さんは聖話で降誕のお話を聞き、平和のために生まれてきたイエス様のお誕生をどんな形でお祝いするか話し合います。

プレゼントを渡すこともケーキを食べることもイエス様はできないからイエス様が喜ぶお誕生日のプレゼントは何か？

色々考え「お友だちをいじめない」「けんかをしない」「みんなにやさしくする」「こまっている子をたすける」など自分たちができることでそのようになることがイエス様の喜びだと話してくれます。

みんなが幸せになることを考えることができるんだなと嬉しくおもいます。

そしてページェントを行いイエス様が自分たちと同じように赤ちゃんから生まれてきたことを覚えます。

ページェントは聖書に基づいてたくさんの登場人物がいます。

そしてどの役欠けることのできない大切な役割がありそれぞれが合わさって一つの物語になっています。

愛隣幼稚園のお子さんはなりたい役もありますが、どの役も重要なことを知っているなので、ページェントの役に自信をもって、一生懸命そして楽しく行ってくれます。そして周囲と心を一つにして創り上げていきます。

今年は当日たくさんのお子さんが病欠になり、劇の流れを担う年長組は急遽2役してくれるお子さんもいましたが、堂々とお家の方々の前で行ってくれました。

学校に上がってキリスト教に触れることもないお子さんもいらっしゃると思いますが、みんなで平和を願う心の中の光として輝かせていてほしいと思います。